

組合員のみなさまへ



少子・高齢化が進む中、農業従事者の減少とあわせ農業者の世代交代期を迎え、農業の構造転換期を迎えています。

これまで長く地域の農業・農村を支えてこられた農業者の方々のリタイアにより、農業生産額も減少傾向にあります。

これからも安全・安心な農畜産物を提供し続けるために地域の農業を、“魅力ある農業”として、夢や希望にあふれる次代につないでいくことが私たちの使命です。

このため、JAでは、「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」を目標に掲げ、“魅力ある農業”を実現するための改革に取り組んでいます。

ＪＡってなんだろう？

「ＪＡ」は「日本の農業協同組合（Japan Agricultura cooperatives）」という意味で、「農協」の愛称です。

農家を中心とした「組合員」が、農家の営農と生活を守り高めることや、よりよい地域社会を築くことを目的に組織しています。

「株式会社」のように、多くの利潤を得ることを目的にしているのではなく、共通の願いを実現するためにある組織です。

私たち「農業協同組合」は、農業を営む「正組合員」と農業者以外の「准組合員」が事業を利用しながら、組織を運営しています。

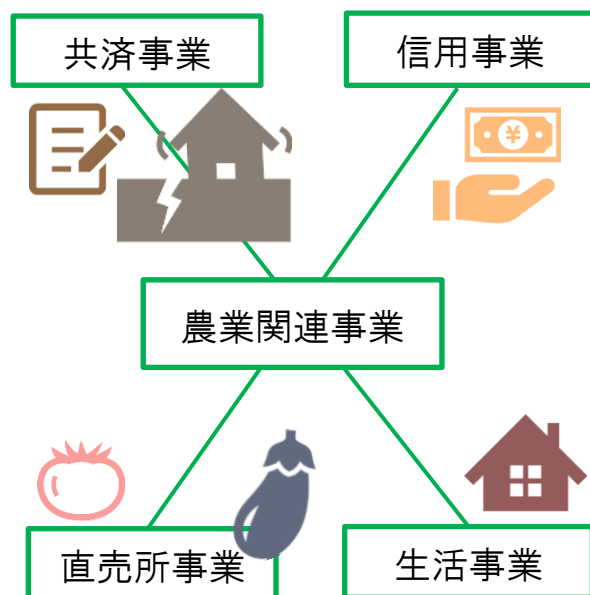
現在、国内には約650のＪＡ、約1000万人の組合員がいます。

世界には約10億人の組合員が存在し2016年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、協同組合は、世界共通の価値となっています。

「総合事業」のご利用で、 地域の農業が支えられています

ＪＡでは、組合員の皆さまの営農や暮らしに役立てていただけるよう、農業関連事業のほか、信用事業（ＪＡバンク）、共済事業（ＪＡ共済）、直売所事業（inショップ、鳥羽マルシェ、HATAKE）、生活事業など様々な事業を行っており、これらを「総合事業」と呼んでいます。

地域の農業にとって大事なＪＡの農業関連事業だけを見ると、収支状況は厳しくはありますが、ＪＡは総合事業だからこそ、農業施設への投資や、組合員の営農をお手伝いする営農指導員の配置が可能となっています。



「作って」「食べて」

地域の農業を次代につなぐ

J Aでは、地域の子どもたちに、「食」と「農」が持つ多様な役割を、農作業体験を通じて伝える「**食農教育**」を展開しています。

また、直売所では、地元の農家の朝採れの野菜や果物を販売して、「**地産地消**」を推進しています。



J Aではこうした事業や活動に、共感してご利用いただける皆さまとともに、地域の農業を応援していきたいと考えています。

楽しく作って、美味しく食べていただくことが、**農業の未来**につながっています。

美味しく食べて、使って、地域の農業を応援！

私たちJ Aの使命は、地域の農業を守り、次代につないでいくこと。そのためには、農業者はもちろん、地域の皆さまが、安全・安心な地元の農畜産物を選んで、美味しく食べていただくことが最も重要なことと考えます。

J AバンクやJ A共済、農産物直売所の運営、子どもたちへの食農教育など、私たちJ Aでは、地域のくらしに役立てるよう様々な事業や活動を行っています。

美味しく食べて、事業をご利用いただくことが、地域農業の応援につながっています。



1. 主食用米取扱数量および取扱高の維持・向上

- ・ 1等米比率向上に向けた研修会や現地巡回を実施しました。
- ・ オリジナルブランド米「夏季大将」を再販しました。

成果指標	28年度	29年度
直売所取扱高	77.7%	21.9%



2. 「多彩な農業」の維持拡大に向けた担い手支援強化

- ・ 鳥羽志摩産ブランド品目の拡大に向けた部会員、認定農業者等への巡回強化や、多彩な野菜づくりへの技術指導を実施し、基本技術の向上を目指しています。
- ・ 平成29年10月からTAC2名を配置し、担い手の訪問活動強化を行いました。
- ・ 長沢育種苗施設を活用し、地域おこし協力隊1名を受け入れました。
- ・ 関係機関と連携した獣害対策支援を行い、地域ぐるみの対策を検討しています。



3. 少量多品目（直売所向け）栽培への支援強化

- ・ 農産物及び農畜産物加工品のレンタル直売所「HATAKE」をオープンしました。また、直売所向け栽培講習会による作付提案、生産履歴・JAS法関係法令遵守に向けた研修会を開催しました。
- ・ 「鵜方紅茶」復活への取り組みを開始しました。

成果指標	27年度	28年度	29年度
直売所取扱高	38,219千円	49,938千円	59,558千円



4. 地域営農ビジョン確立に向けた取組

- ・ 地域営農ビジョン策定に向けた地域活性化プランに取り組んでいます。
- ・ 平成29年8月から農業経営事業（イチゴ・甘藷）を開始しました。
- ・ 「鵜方紅茶」復活への取り組みを開始しました。

生産品目	いちご	甘藷
経営面積	24アール	5アール
実施地区	阿児町神明長沢	阿児町神明長沢



5. 安定的な組織・経営基盤の確立

- ・ 購買店舗機能の充実に向けた経済店舗の見直し、集約を行いました。また、経済店舗で休日営業を開始しました。



6. 組合員農家トータルコスト低減に向けた担い手対策

- ・ 無人ヘリコプターを更新し、農作業の省力化に取り組みました。
- ・ 生産資材価格見直しに向けた取組として、平成29年10月1日より肥料・農薬について、店舗へ引き取りに来ただけの方については、割引価格の設定を行いました。
- ・ 水稻資材（肥料・農薬）予約購買にて、コスト低減が図れるよう割引価格を設定しました。
- ・ 土壌診断の実施による適正な施肥指導を行っていきます。
- ・ ジェネリック商品の取扱を開始しました。



7. 相続・農地承継の支援の強化

- ・担当部署を設置・明確にし、窓口機能の農業相談員を各所に配置しました。
- ・「農業電子図書館」を配備し、窓口相談機能を強化しました。
- ・AFP相談会や相続相談会を定期的に開催しました。



8. 組合員との関係深化による組織基盤の強化

- ・支店協同活動や支店感謝祭の開催による地域の活性化や支店だよりの発行による情報発信強化を行いました。
- ・担い手との意見交換や総代との座談会を各地区で開催しました。



成果指標／総代との座談会出席者数

鳥羽	19人	磯部	23人	阿児	26人	阿児東	17人
浜島	18人	大王	15人	志摩	29人		

9. 高齢者がいきいきと生活できる地域社会の実現

- ・JA健康寿命100歳プロジェクトの展開や、見守り活動を含めた地域包括ケアシステムへの参画に向けて、鳥羽市・志摩市や関係団体と協議しています。



10. 広報体制の強化と多様な広報手段を活用した情報発信の強化

- ・ 広報活動の体制整備や広報誌Family、農業新聞やメディア等を通じて、地域の皆さまに情報発信を行っています。

メディア等の取材実績	
平成28年度	・ 「あぐりスクール生き物調査」 三重テレビ取材（6/4ニュースウィズで放送） ・ 「鳥羽マルシェ」 三重テレビ取材（4/29とってもワクドキで放送） 等
平成29年度	・ 「三重オクラ」 東海テレビ取材（7/26スイッチで放送） ・ 「南張農産」 東海テレビ取材（8/27スタイルプラスで放送） 等



11. 事業計画に対する進捗管理の徹底

- ・ 四半期ごとに事業進捗検討会議を実施し、PDCAサイクルを徹底し、経営管理の高度化に取り組んでいます。

12. 地域農業の理解促進と食農教育活動の展開

- ・ あぐりスクールの開催や、管内の学校給食へ鳥羽志摩産オクラを提供しました。
- ・ 商談会に参加し、鳥羽志摩産ブランド品のPRを行いました。



13. 事業基盤の強化

- ・ 地域利用者ニーズにあった金融商品やサービスの提供、地域貢献活動を通じた幅広い年代層との取引拡大、現場力強化による重要取引世帯との取引拡充を行っていきます。

成果指標	28年度	29年度
直売所取扱高	691億円	709億円



14. 農業資金の増強

- ・ 金融部門と経済部門が連携した農家訪問や農機展示会での融資相談会を開催し、地域農業の活性化に取り組んでいきます。

成果指標	28年度	29年度
農業資金実行額	2,800千円	1,300千円



15. J A 共済の満足度向上

- ・ 3Q訪問活動による全戸訪問を実施します。さらに、地域貢献活動を通じて組合員、利用者等と継続的な接点強化、強固な信頼関係を築く活動に取り組んでいきます。

成果指標	28年度	29年度
3 Q 訪問実施率	47.7%	75.4%

その一口が、 未来の農業を耕します。

わたしたち J A は、組合員・地域の皆様に

「J A があってよかった」から

「J A はなくてはならない」

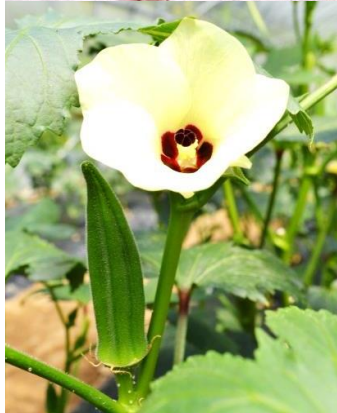
と言っていただけるように、これからも総合事業の
強みを活かした活動に取り組んで行きます。

地域の農業を、農業者とともに、未来につなぎ、

J A 鳥羽志摩は、これからも皆様の伴走者として、
営農をサポートします。



耕そう、大地と地域の未来。



「地域農業を守る」

食と農とくらしを結ぶ

農業協同組合としての役割



干し芋
「きんこ」



JA鳥羽志摩
オリジナル精米
「志摩そだち」「珠光」



イチゴ
「レッドパール」
「かおりの」「章姫」



三重オクラ



加茂牛



伊勢志摩パールポーク
「あらびきウイナー」